



理事長挨拶

医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大



以前から議論されていた新型コロナウイルスの2類相当から5類への移行ですが、本年5月8日に正式に決定しました。マスクの着脱について既に様々な想定が聞こえております。当法人としては、医療費の取り扱い、公費負担、ガイドラインの見直し等を注視し、基本に忠実な感染対策の継続を実施していく所存です。

ここ数年、医療・介護業界内でもDX（デジタルトランスフォーメーション）が盛んに叫ばれるようになりました。町田市で運営するふよう病院では、他の事業所に先立ち、取り組んでおりましたが、以前に導入したロボットスーツは、現場に定着せずに失敗に終わり、躓いた時期がありました。原因について振り返ると様々な要因が露呈され、そもそもロボットスーツというのは、体に装着し筋力を補助する装置と位置づけられており、腰痛等の防止にも役立つという位置づけ。経営サイドで介助時に発生しがちな腰痛等への配慮も重なり導入しましたが、スタッフ側の本音を聞くと、装着に時間がかかり繁忙時には適さないとの事。経営側と現場に食い違いがあった事は確かでした。このような実

体験から、その後のツール導入については実際に業務効率化が実現するのか、継続した活用が可能なのかと再考しました。今後の予定として2024年度中に電子カルテ導入を決定。介護事業所においては、LIFE加算取得を予定。LIFEデータを有効活用し、制度対応に取り組めます。また研究費（仮称）を計上し、ロボット、AI、ICT等の実用化推進による人員基準要件緩和への対応を実施する段階へステップアップしていきます。ロボットスーツの件は残念でしたが「成功の反対は失敗ではなく、何もしない事」と考え、今後も前進していく所存です。

最後に年末から現在まで、複数名の患者様と職員に新型コロナウイルス感染が確認され、皆様には、ご心配・ご迷惑をおかけしております。オンライン面会等については、当法人のホームページでお知らせしますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

「老人は国の宝」

医療法人社団 芙蓉会（事業所一覧）



- ・ふよう病院
- ・ふよう病院介護医療院
- ・芙蓉ミオ・ファミリア町田
- ・グループホームあおぞら
- ・デイサービスふれあいルーム
- ・千葉芙蓉病院
- ・きゃらの樹ケアセンター
- ・千葉芙蓉ハーモニー
- ・千葉芙蓉ステーション

管理者研修

2022 年度管理職研修（全 4 回：40 名が対象）の第 3 回目を 12 月 9 日、16 日の二日に分けて開催しました。第 2 回目で学んだ「部下との関係構築の基本」をさらに掘り下げた「アサーティブコミュニケーション」について学びました。他者を変えるのではなく、正直に自分の考えを伝えると同時に相手の表現を待って受け止め、「自他尊重」の態度で部下と接するようにし、攻撃的な表現や無視などをしないという内容でした。早速取り入れて少しずつやってみようという管理職も多く、「少しずつでも前に進もう。」「今よりも良くしよう。」という考えを持つことの大切さを実感しました。



2022 年 12 月院内研修『防災クイズ』

発行者：防火担当 松倉

内容：ここ数年、毎年 12 月は防災研修を行っています。災害時にご利用者の頼りになるのはスタッフであり、有事の際に自分がどう行動すべきかを一人ひとりがわかっていることが重要と考え、くり返し基本的な防災機器の仕組みや取

扱い方法について、クイズ形式の資料を全員に配布しています。毎回、「覚えていたつもりだけど忘れていたことがある。」という感想が多く聞かれ、くり返し継続していくことの大切さを感じます。

2023 年 1 月院内研修『ユマニチュードと認知症ケア』

発行者：ふよう病院 佐藤院長

内容：これまで行ってきた認知症の研修の中でスタッフから具体的な技法について知りたいという声が多く上がっていたことをふまえて、今回は「ユマニチュード」を取り上げ、資料を配布しました。

「ユマニチュード」とは、フランスで生まれた、とくに認知症のケアに有効な実践的面接技法

で、日本でも多くの医療・介護で推奨されており、「あなたのことが大切です。」というメッセージを伝えるために「見る」「話す」「触れる」「立つ」の 4 つの柱を組み合わせる認知症の方にアプローチしていくものです。法人としても、攻撃的言動を軽減するものとして、日常の介護に取り入れていく方向です。